

令和 3 年度 京都市国民健康保険事業特別会計決算概要

1 基礎計数

項 目	3 年度予算 (A)	3 年度 実績見込(B)	差引 (B - A)	(参考) 2 年度実績
一般被保険者数	294,000人	291,262人	△2,738人	297,581人
一般世帯数	201,000世帯	200,908世帯	△92世帯	203,500世帯
一般総医療費	115,099百万円	115,205百万円	106百万円	108,779百万円
一般1人当たりレセプト件数	16.30件	15.78件	△0.52件	14.65件
一般1件当たり医療費	24,024円	25,062円	1,038円	24,947円
一般1人当たり医療費	391,493円	395,538円	4,045円	365,544円

ポイント

○ 一般被保険者数の見込減

新型コロナウイルス感染拡大の影響による雇用情勢の悪化を見込んでいたが、社会保険から本市国民健康保険への加入者数が想定よりも減少したことにより、予算時点の見込を下回った。

○ 一般総医療費の見込増

一定の伸び率を見込んで医療費の予算編成を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う受診控えの反動によって1人当たり医療費が増加したことにより、予算時点の見込を上回った。

2 財政状況

(単位:百万円)

項 目		3年度 予算額(A)	3年度決算 見込額(B)	差引 (B - A)	(参考) 2年度決算 額(C)	増△減 (B-C)		
一般医療分	歳入	保険料	15,893	15,455	△ 438	※②	15,842	△ 387
		国庫支出金等	2	689	687	※③	1,266	△ 577
		府支出金	97,745	100,153	2,408	※③	95,391	4,762
		一般会計繰入金	12,081	12,111	30		13,950	△ 1,839
		繰越金	600	600	0		0	600
		その他	251	291	40		329	△ 38
	小計	126,572	129,299	2,727		126,778	2,521	
	歳出	給付費	97,184	98,616	1,432	※③	93,063	5,553
		納付金	23,432	23,431	△ 1		25,360	△ 1,929
		保健事業費	1,115	920	△ 195	※④	824	96
基金積立金		0	2,700	2,700	※①	0	2,700	
その他		4,080	3,765	△ 315	※⑤	3,914	△ 149	
小計	125,811	129,432	3,621		123,161	6,271		
差引過△不足額	761	△ 133	△ 894		3,617	△ 3,750		
後期高齢者 支援分	歳入	保険料	5,775	5,571	△ 204	※②	5,698	△ 127
		一般会計繰入金	2,416	2,430	14		2,415	15
	小計	8,191	8,001	△ 190		8,113	△ 112	
	歳出	納付金	8,467	8,466	△ 1		8,414	52
小計		8,467	8,466	△ 1		8,414	52	
差引過△不足額	△ 276	△ 465	△ 189		△ 301	△ 164		
介護分	歳入	保険料	1,989	1,911	△ 78	※②	1,956	△ 45
		一般会計繰入金	794	827	33		802	25
	小計	2,783	2,738	△ 45		2,758	△ 20	
	歳出	納付金	3,268	3,268	0		3,230	38
小計		3,268	3,268	0		3,230	38	
差引過△不足額	△ 485	△ 530	△ 45		△ 472	△ 58		
退職者等 医療分	歳入	保険料	1	1	0	※②	2	△ 1
		府支出金	33	0	△ 33		12	△ 12
		その他	1	1	0		1	0
	小計	35	2	△ 33		15	△ 13	
	歳出	給付費	34	0	△ 34		11	△ 11
		納付金	0	0	0		1	△ 1
		その他	1	0	△ 1		0	0
小計	35	0	△ 35		12	△ 12		
差引過△不足額	0	2	2		3	△ 1		
歳入合計(A)	137,581	140,040	2,459		137,664	2,376		
歳出合計(B)	137,581	141,166	3,585		134,817	6,349		
単年度収支(A-B)	0	△ 1,126	△ 1,126		2,847	△ 3,973		

◎一般会計繰入金の内訳

(単位:百万円)

	3年度 予算額(A)	3年度決算 見込額(B)	差引 (B - A)	(参考) 2年度決算 額(C)	増△減 (B-C)
保険基盤安定繰入金	8,882	8,988	106	8,937	51
財政支援分繰入金	6,409	6,380	△ 29	8,229	△ 1,849
計	15,291	15,368	77	16,339	△ 1,798

◎基金保有額の状況

(単位:百万円)

2年度末基金保有額	0	
3年度基金積立額	国保特会の累積収支	2,700
	一般会計からの臨時的支援 (4年度予算で活用)	1,840
3年度末基金保有額	4,540	

単年度赤字の主な要因

合計 $\Delta 11$ 億円
(括弧内の金額は収支への影響額)

① 国保事業基金への積み立て ($\Delta 27$ 億円)

令和5年度以降の納付金の増加に対応するため、令和2年度実質累積黒字27億円を国保事業基金に積み立てた。

② 保険料収入の増 (+5 億円)

新型コロナウイルス感染症特例減免により11億円の減免を実施したこと、法定軽減が見込よりも1億円増加したことにより、保険料収入が12億円減少する見込みであったが、徴収率の向上によって保険料収入は7億円の減収に留まった。

③ 国庫支出金、府支出金の増 (+6 億円)

予算編成段階では見込んでいなかった税制改正に係るシステム改修費分や、府特別調整交付金の経営評価分等が、想定よりも確保できた。

給付費の執行額は14億円増加しており、財源である府支出金も同額増加する見込みであったが、31億円の増加となっている。
差額の17億円の増加分にはコロナ特例減免に係る国・府支出金の11億円が含まれており、これは保険料の減免額と相殺されるため、6億円の黒字要素となる。

④ 保健事業費の減 (+2 億円)

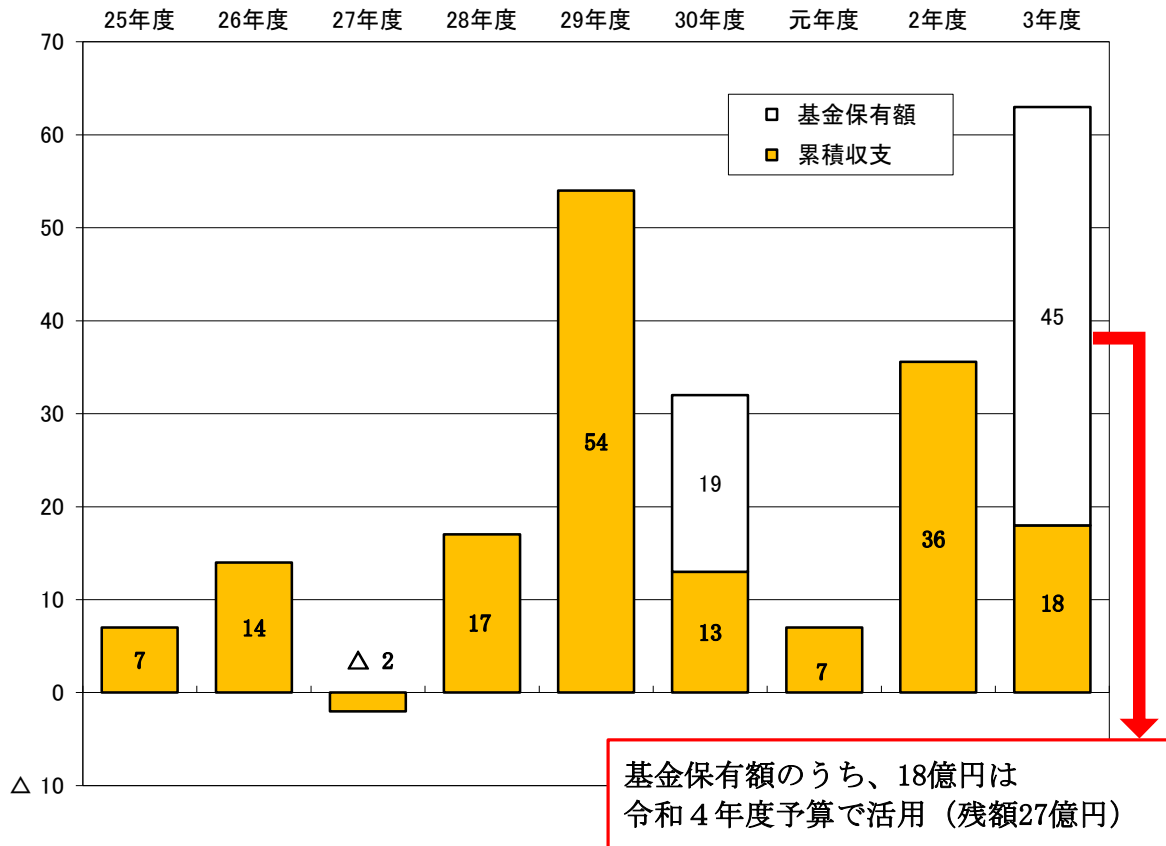
新型コロナウイルス感染症の影響で特定健診の受診者数が減少し、委託料の減となった。

⑤ その他経費の節減等 (+3 億円)

ただし、「①国保事業基金への積み立て ($\Delta 27$ 億円)」の影響を除くと、単年度収支は16億円の黒字となる。

3 累積収支の推移

(億円)



令和3年度末累積収支 18億円の黒字

令和2年度決算における累積黒字36億円のうち、6億円を令和3年度予算で保険料率据置を行うため活用した。

令和3年度決算見込においては、単年度収支は11億円の赤字となり、累積収支は18億円の黒字となった。（※1億円単位で表示しているため、端数処理により合計が一致しない。）

国保基金保有額は、令和3年度において、令和2年度実質累積黒字27億円に加えて、令和4年度の保険料引上げの抑制を図るために一般会計からの臨時的支援18億円を積み立てたため、令和3年度末で45億円となった（うち、18億円は令和4年度予算で活用）。

令和3年度決算見込における累積黒字18億円と国保基金の残高である27億円については、令和5年度以降の納付金の急激な増加に備える等、被保険者の負担を軽減するために活用していく。

引き続き、保険料の徴収率向上等による歳入の確保に努め、後発医薬品の普及啓発、特定健康診査や健康啓発事業等による被保険者の健康づくりなど医療費の適正化を推進し、国保運営の安定化に努めていくとともに、被保険者が将来にわたり安心して医療を受けられる制度となるよう国を保険者とした医療保険制度の一本化と、それが実現するまでの間の更なる財政支援の拡充について国に対して強く要望していく。